**ハンドマイク街頭演説原稿例　　参院選挙区擁立・文通費・公約実現**

二〇二一年一一月一七日　日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、日本共産党埼玉県委員会は、来年の参議院埼玉選挙区に梅村さえこ元衆院議員を擁立してたたかうことを発表しました。梅村さえこさんは、先の総選挙で比例代表北関東ブロック候補としてたたかいました。来る参議院選挙は、定数４の埼玉選挙区で、必ず梅村さえこ元衆院議員を当選させるため全力を尽くします。引き続きのご支援をよろしくお願いします。

みなさん、先の総選挙の結果をみて、一部のメディアが「野党共闘は失敗」などと伝えています。しかし、今回、政権交代をめざして野党４党が共闘したことは、初めてのチャレンジとして大きな歴史的意義があったと考えています。埼玉県内でも、野党共闘の候補が勝利した選挙区は２つから３つに増えました。埼玉１０区のように小選挙区では接戦のすえ敗れたものの、比例で復活当選した選挙区もあります。埼玉８区もあと一歩でした。初めての野党共闘には、様々な課題もありましたが、野党が本気で力を合わせれば政権与党を少数に追い込むことはできると確信します。国民の声を聞かない自民・公明の政治がいつまでも続いていいはずがありません。日本の政治を変える道は、共闘しかない。日本共産党は、今後も誠実に市民と野党の共闘の発展に力を尽くしてがんばります。

みなさん、「新しい資本主義」という岸田政権の目新しいスローガンも、これまでの大企業優遇の経済政策とほとんど変わらないことが明らかになりました。各国が気候危機への対策を話し合う「ＣＯＰ２６」で、日本政府は、環境ＮＧＯから「化石賞」を贈られました。石炭火力発電の使用継続など、消極姿勢はただちにあらためるべきです。国民の多数が認める選択的夫婦別姓の導入にも岸田首相は後ろ向きのままです。さらに、維新の会が改憲をあおり、自民党も同調するなど、憲法９条を変えるための憲法改悪の動きも決して見過ごすことはできません。日本共産党は、憲法を守り、「気候危機打開」「ジェンダー平等社会の実現」など「４つのチェンジ」実現めざして国民と力を合わせていきます。

みなさん、維新の会が在職１日でも月１００万円支給される文書通信交通滞在費の問題点を指摘し、松井代表が「日本共産党はだまって受け取っている」と述べました。しかし、日本共産党は、３０年前にこの文通費が７５万から１００万に増額されたときから一貫して反対し、その後も毎年の議院運営委員会などで文通費の問題を指摘し、抜本的見直しを求めてきました。このような事実からも、松井代表の発言は、まったくの事実無根です。そもそも、維新の会が「身を切る改革」と言うならば、年間３２０億円、国会議員一人あたり毎月３００万円以上にものぼる政党助成金こそ廃止させるべきではないでしょうか。日本共産党は、文通費の抜本的見直しとともに、最大の無駄遣いである政党助成金を廃止するため引き続き力を尽くします。ご理解とご協力をよろしくお願いします。

最後に、日本共産党へのご支援を重ねてお願いするとともに、スクープ連発で注目をあつめる「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）